



信州大学の存在意義

国立大学法人信州大学
学長 中村 宗一郎

昨年の10月に第15代信州大学長に就任いたしました。新体制では「エンrollment・マネジメント(以下、EMと略す)」担当の副学長を配置しました。大学の使命は、教育、研究、そして社会貢献ですが、EM担当副学長にはこれら3つのミッションの横ぐしとして、深く関わってもらうことにしました。あれから半年、漸く、EMの考え方が本学においても浸透し定着しつつあるように思えます。

辞書をひも解くと、エンrollment(enrollment)が「登録」、「入会」、「入学」という意味を持つことがわかります。大学におけるEMとは、多様化する入学者を、入学前から、学力、就職、生活等全てにおいて総合的にサポートし、コンピテンシーを高め、社会で活躍できる人材に育て上げる総合的な学生支援の仕組みと定義されています。「今の自分があるのは大学のお陰」→「大学は自分の人生の全て」→「死ぬ時には、遺産は全て大学に寄付」というようなカルチャーを醸成したいと半ば本気で考えています。また、エンrollment(enroll)には、「包み込む」、「巻き込む」という意味があります。大学を取り巻く多様なコミュニティを巻き込んでこそ、地方大学の真骨頂が発揮できるとも考えています。学内外のステークホルダーがその地域固有の大学ブランドを軸により深く繋がること(エンゲージメント形成)ができれば素晴らしいことではないでしょうか。それぞれの地域の大学がその地域の知の拠点として、その地域に根ざした教育、研究、社会貢献を続けてきたこと、そのフィロソフィー、その存在意義をしっかりと地域に定着させ、エンrollment(巻き込んで)していくことができれば、持続可能な地方大学への道は自ずと拓けてくると信じています。

大学が中心となって、多様な学問分野、業界、世代、そして地域社会に分散している「知」を集約、結集すれば、そのシナジー効果によってとてつもなく大きな新しい価値を生み出すことが可能となります。

これからの信州大学は、ギアを一段上げて、多様で卓越した「知」を生み出す基盤を強化し、他の地域の大学と連携しながら、特色ある分野で世界をリードする教育研究を展開してまいります。中経連の皆さま方にはこれからも何かとお世話になることが多いと思います。

引き続きご指導のほど宜しくお願い申し上げます。